東京大学

東日本大震災・原子力災害伝承館

指導者用

東日本大震災・原子力災害伝承館

事前学習 指導書

Ver.1.0

アンケートにご協力ください

下記のQRコードを読み取るか、URLを入力しアクセスしてください。

https://www.fipo.or.jp/lore_prestudy/distribution/enquete/?t=t&k=84154d6584211d499d61301b8bd0b4c2bf7b1cd56fbdedcf2cca3312f6563abb

目次

1　はじめに　P3

(1) 事前学習の目的

(2) 当学習の位置付けと伝承館での学習について

2　事前学習の進め方の例　P4

(1) 進行スケジュール例

(2) 事前学習指導方法例

3　指導例　P5

学習用資料をページごとに記載

4　事後学習の実施 例　P26

（宣言書・ワークシート様式添付）

【学習の準備】　生徒：学習用教材・ノート・筆記用具等

（学習用）事前学習テキスト

●次のいずれかの方法でご準備ください

・生徒各自タブレットにダウンロード

・教員のパソコンにダウンロードし、
教室のモニターやプロジェクターで投影

・印刷（枚数が多いことをご了承ください）

（指導者用）事前学習 指導書（当資料）

・印刷など

指導書を参考に
（学習用）事前学習テキスト
を使用し進行ください。

発　行　：福島県 企画調整部文化スポーツ局　生涯学習課

お問合せ：公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
東日本大震災・原子力災害伝承館

電話0240-23-4402　FAX0240-23-4403
電子メール　archive@fipo.or.jp
HP　https://www.fipo.or.jp/lore/

1 はじめに

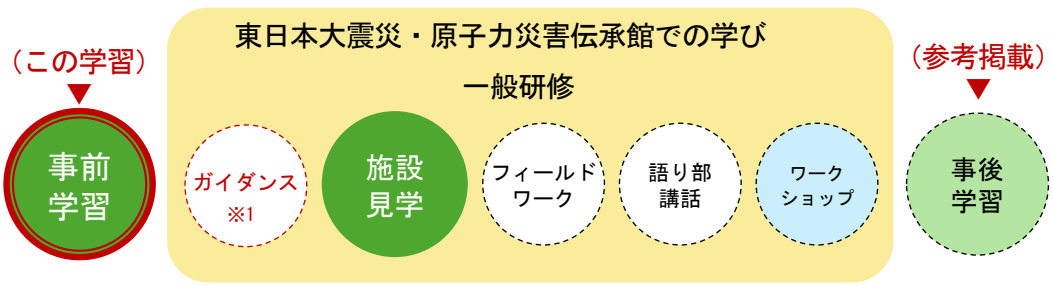
（1）事前学習の目的

２０１１年３月の東日本大震災・原子力災害から長い年月が経過し、震災の経験がない、または記憶が薄い生徒が増えています。そのため、東日本大震災・原子力災害伝承館（以下「伝承館」）での学習利用も増加しております。その中で、現地館内学習にあたり、事前学習用教材の提供を求めるご意見もいただいておりました。
当事前学習プログラムは、基本情報について予備知識を学ぶことで、伝承館を訪れる目的を明確にし、学習意欲を高めることを目指しています。

（2）当学習の位置付けと伝承館での学習について

この事前学習は、伝承館来館・施設見学や一般研修等に対する「事前学習」です。
伝承館では、地震・津波・原発事故・長期にわたる住民の避難・復興の歩みなど、多岐にわたる情報を取り扱っています。そのため、来館前に事前学習を行うことで、基礎的な知識を習得し、来館の目的を明確にすることを目指したプログラムです。

伝承館では、一般研修として「施設見学」の他にも「フィールドワーク」や「語り部講話」「ワークショップ」などのプログラムがありますので、あわせてご検討ください。
また、施設見学後の「事後学習」を行うことで、震災を自分事として捉え、どのようにいかすかを学ぶことに繋がります。参考までに、「事後学習」のワークショップの例も当指導書に掲載しましたので、ご活用いただけましたら幸いです。



ガイダンス(15分) ※1 当事前学習実施により不要	施設見学 (60分～)	フィールドワーク (60分)	語り部講話 (40分)	ワークショップ (60分)
研修の流れや目的を共有し、福島で起きた複合災害の概要を端的に知り、効果的な学習に繋げる。	東日本大震災と原子力災害について、5つのゾーンから、世界初の複合災害の記録や教訓、そこから着実に復興する過程を知る。	双葉町・浪江町の被災地をバスで巡り、各地の現状を見て震災の事実、復興の状況、課題を知る。	震災を経験した語り部の生の声を聞き、当時の体験を自分事として体感する。	研修を通して知ったこと、感じたことを振り返り、参加者の間で共有する。自分事とし、考え続けること・いかすことを考え宣言する。

2 事前学習の進め方の例

（1）進行スケジュール例

■タイムスケジュール例

準備・進行説明等（５分）

学習用教材による説明等（４０分）

全体予備（５分）（1コマ５０分時）

開始	予定	終了	頁	項目	内容
0:00	5.0	0:05		開始準備 以下　学習用テキストに対する進行	・授業開始の挨拶 ・事前学習準備状況の確認 （資料ダウンロードなど等は事前に準備）
0:05	0.5	0:05	1	表紙	・表紙
0:05	8.0	0:13	2	ワーク	・ワーク説明 1.0 個人ワーク 2.0 質問-1　発表・全体共有 1.5 質問-2　発表・全体共有 1.5 予備 2.0
0:13	1.5	0:15	3	福島県は…	福島県の概要1
0:15	0.5	0:15	4	福島県の魅力	福島県の概要2
0:15	0.5	0:16	5	事前学習 タイトル	
0:16	1.0	0:17	6	伝承館見学・目的	
0:17	0.5	0:17	7	展示エリア	
0:17	1.5	0:19	8	❶災害の始まり	事故前の暮らし
0:19	1.0	0:20	9		東日本大震災について
0:20	1.0	0:21	10		福島第一原子力発電所の事故
0:21	1.0	0:22	11		複合災害について
0:22	1.0	0:23	12		人的被害の状況
0:23	1.0	0:24	13	❷事故直後の対応	経験したことのない原発事故
0:24	1.0	0:25	14	❸県民の想い	突然奪われた平穏な生活
0:25	2.0	0:27	15	＜補足＞人権について	福島県からの避難･転校で発生した人権問題
0:27	1.0	0:28	16	❹長期化する影響	除染作業・中間貯蔵
0:28	1.0	0:29	17		空間放射線量の推移
0:29	1.0	0:30	18		農林水産業の取り組み
0:30	1.0	0:31	19	❺復興への挑戦	新たな産業の取り組み
0:31	3.5	0:34		予備・質疑応答等	
0:34	9.0	0:43	20	ワーク	事前学習ふりかえり 1.0 ・個人ワーク 3.0 ・発表／全体共有 3.0 ・予備 2.0
0:43	1.5	0:45	21	（裏表紙）	指導者からのメッセージ
合計	0:45	分			
0:45	5.0	0:50		授業のまとめなど	

（2）事前学習指導方法例

当ページの目的

学習用スライド

説明原稿（参考）
各指導者の言葉で説明ください。

指導者用
補足・参考資料等

当頁の説明
基本時間

当内容をベースに、より効果的な学習になるよう、見直して実施ください

3　Ｐ１　事前学習テキスト　表紙

この頁の目的	基本時間
学習の開始にあたっての説明	0.5分

学習用資料

指導例

それでは、これから福島県の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の見学に先立ち、

・福島県のこと
・東日本大震災や原発事故のこと
・また震災で地域がどのように変化したか
・その他　関連する基本情報
について学習します。

たくさんの情報があるので、メモをしっかり取るようにしてください。

補足・参考

P２　個人ワークと全体共有

この頁の目的	基本時間
・事前に訪問先に関して考えることで学習への参加意識を持つ ・訪問前のイメージ、何を知っていて知らないかを自覚する	8.0分

学習用資料

指導例

まずはじめに、皆さんに質問です。

●質問１：福島県について、どんなことを知っていますか？

例えば・・・どこにあるか、歴史や文化的なこと
名所や観光・産業・有名なもの　など

●質問２：東日本大震災について、どんなことを知っていますか？

例えば・・・いつ発生したか、震源地や地震の大きさ、
どんな被害があったか　など

この二つの質問に対し、自分の考えを書き出してみましょう。
時間は（２分間）取ります。ではスタート。

時間になったら終了の合図をし、複数人に発表してもらい全体共有をはかる（３分）

補足・参考　（ワーク全体の予備２分）

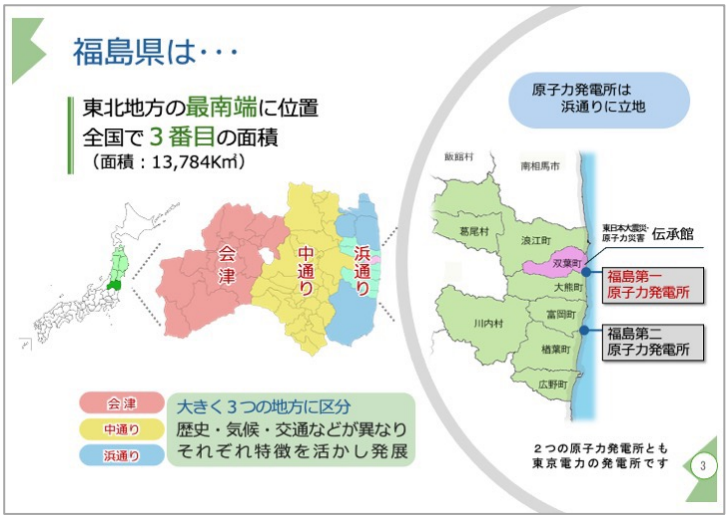
個人ワーク　まずは一人一人で考え、数多く書き出してもらいます。
（野口英世・桃・ハワイアンズ・原発事故があった場所･･･）
何も思い浮かばない生徒も意外と多くいると思います。
（思い浮かばないということを認識することでＯＫです）

全体共有　代表者に答えてもらい、全体で共有します。
自分が考えたこと ＋ まわりの人の話を聞くことで、以下のことを目的としています。
・知識を増やす
・自分と他者との違いを知る
・訪問先のことを事前に考える

P３　福島県について（1）

この頁の目的	基本時間
・訪問する地域の基本的なことを知る ・原子力発電所、伝承館の建っている場所の把握	1.5分

学習用資料



指導例

それでは、テキストに戻ります。
福島県の概要について説明します。
福島県は、東北地方の最南端に位置し、全国の都道府県の中で３番目に大きい面積です。　因みに　１番目は？・・・北海道、２番目は？・・・岩手県

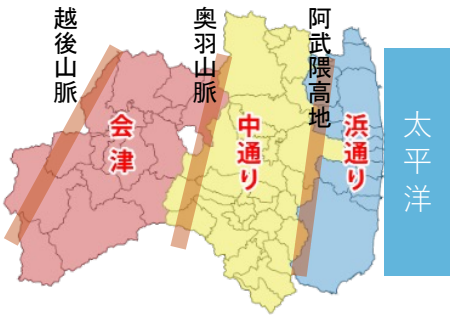
自分たちの地域についての質問等で自分の地域のことも考えてみる。
例）東京は全国で何番目の面積か知ってる？など

福島県の市町村は５９ありますが、大きく３つの地域＝会津・中通り・浜通り に分けられます。
▸各地域、歴史や気候・交通面などが異なり、それぞれ地域の特長をいかし発展してきた福島県です。

そして大切なこと・・・
福島県の「浜通り」には、大事故を起こした東京電力「福島第一原子力発電所」、かろうじて大事故を免れた「福島第二原子力発電所」があり、
伝承館は、双葉町（ピンク色）にあります。

補足・参考

地域の区分



福島県の地方は山脈によって分かれている。

会　　津：越後山脈と奥羽山脈の間
中 通 り：奥羽山脈と阿武隈高地の間
浜 通 り：阿武隈高地と太平洋の間

※ 都道府県別面積　参照
（Ｐ２５―図１）

P４　福島県について（2）

この頁の目的	基本時間
・各地域で住民が大切にしているものがあることを確認 ・福島は原発事故で大きな影響を受けたことを理解する	0.5分

学習用資料

指導例

私たちの地域にも全国各地にも、地域の魅力がたくさんあるように、

福島県にも
- 会津磐梯山や猪苗代湖などの「自然」
- 桃や太平洋で捕れる「じょうばんもの」と呼ばれるお魚等の「食べもの」
- 会津の鶴ヶ城をはじめとする「歴史や伝統」　など

たくさんの魅力があって、これらは長年大切にされてきました。

しかし、震災や原子力発電所の事故により、こうした大切なものの多くが大きな打撃を受けることになりました。

補足・参考

最初のワーク（質問）で生徒から出た福島県で知っていることとつなげてお話しください。

Ｐ５　（伝承館写真）

この頁の目的	基本時間
（伝承館での学習　本題スタート）	0.5分

学習用資料

指導例

それでは、これから福島県　双葉郡双葉町（ふたばぐんふたばまち）　にある
「東日本大震災・原子力災害伝承館」に関する学習について学んでいきます。

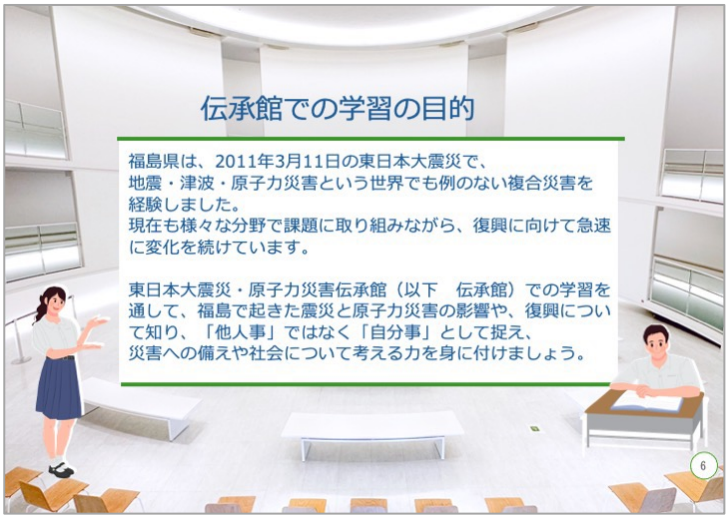
伝承館は、福島第一原子力発電所から北に約４キロの位置にあり、
２０２０年９月に開館しました。

補足・参考

P６　伝承館見学・学習の目的

この頁の目的	基本時間
伝承館見学の目的を伝える	1.0分

学習用資料



指導例

伝承館見学の目的です。

福島県は、２０１１年３月１１日の東日本大震災で、地震・津波に加え、
原子力災害という世界でも例のない複合災害を経験しました。

福島で起きた震災と原子力災害の影響や、復興について知り、
「他人事」ではなく「自分事」として捉えて、
災害への備えや社会について考える力を身に付けましょう。

（学校としての目的をお伝えください）

補足・参考

P７　伝承館の展示エリア

この頁の目的	基本時間
伝承館の展示ゾーンの説明 どのような展示があり、どのようなことを学べるか、興味をもってもらう	0.5分

学習用資料

指導例

伝承館の展示エリアについて紹介します。

最初に、シアターで５分間のプロローグ動画を観ます。
この動画では、原発が建設されたことで地域がどのように変わったのか、
東日本大震災が起きたときのことや、避難指示、それから復興に向けた歩みなど
について紹介されています。

展示は、テーマごとに５つのゾーンに分かれています。
１．災害の始まり
２．原子力発電所 事故直後の対応
３．県民の想い
４．長期化する原子力災害の影響
５．復興への挑戦

それぞれのテーマについて、しっかり見学しましょう。

補足・参考

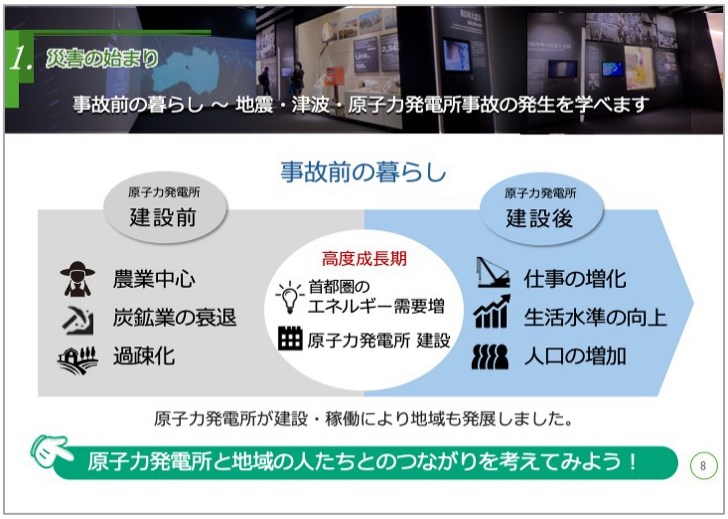
シアターで動画を観た後に、スロープの年表を見ながら２Ｆへ進み、
ゾーン１から５の自由見学になります。

展示室内には伝承館スタッフ（アテンダント）がいるので、説明を聞いたり質問したり
することができます。

P８　災害の始まり・事故前の暮らし

この頁の目的	基本時間
原子力発電所ができた背景、原子力発電所の建設前と建設後で、 どのように地域の暮らしが変化したかを知る（産業による地域の変化）	1.5分

学習用資料



指導例

原子力発電所がある地域は、原発が建設される前は、農業が中心の地域でした。

以前は炭鉱（石炭産業）が栄えていた時期があったものの、エネルギーの中心が石炭から石油や天然ガスへの転換が進み（エネルギー革命）、産業がどんどん衰退していきました。人口も少なく過疎化が進んでいきました。

一方、高度成長期の時代には首都圏のエネルギーの需要が急増し、その頃注目されていたのが、新しい時代のエネルギー「原子力発電」でした。
福島県は原子力発電所の誘致に動き、東京電力 福島第一原子力発電所の建設開始、
１９７１年３月には１号機の営業運転がスタートしました。

作った電気は首都圏へ送られ、地域は大きく変わりました。
仕事（雇用）が生まれ、地域の生活水準は向上し、人口も増加していきました。
原発と共に発展の歩みをはじめた地域になりました。

問い：原子力発電所と地域の人たちとのつながりを考えてみよう！

補足・参考

原子力発電所の位置と総出力数について

おおくままち・ ふたばまち
（大熊町・双葉町）

とみおかまち・ ならはまち
（富岡町・楢葉町）

それぞれの原発は２つの町にまたがり建設

1971年	1号機	46.0 万kW
1974年	2号機	78.4 万kW
1976年	3号機	78.4 万kW
1978年	4号機	78.4 万kW
1978年	5号機	78.4 万kW
1979年	6号機	110 万kW
総出力		469.6万kW

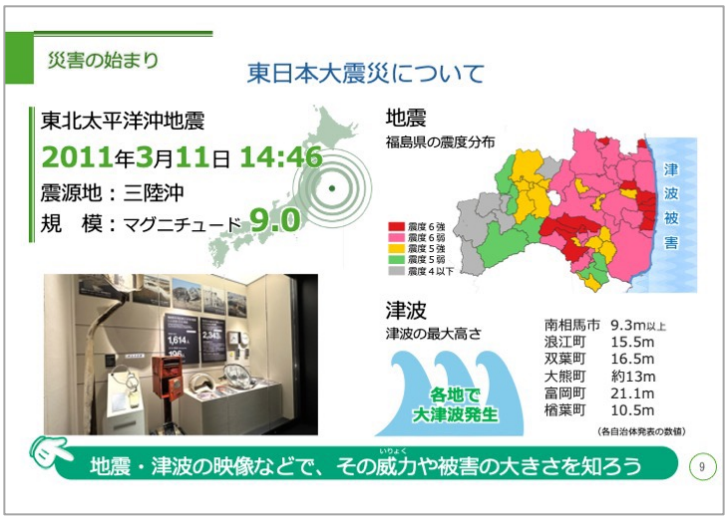
1982年	1号機	110 万kW
1984年	2号機	110 万kW
1985年	3号機	110 万kW
1987年	4号機	110 万kW
総出力		440 万kW

（写真：福島県「平成22年度原子力行政のあらまし」より引用）

P９　東日本大震災について

この頁の目的	基本時間
地震、津波の大きさなど、東日本大震災の事実を知る	1.0分

学習用資料



指導例

東日本大震災について説明します。

１９７１年の原発営業運転開始からちょうど４０年経った、
２０１１年３月１１日　午後２時４６分

三陸沖を震源地とする日本観測史上最大のマグニチュード９．０の巨大地震が
発生しました。

この地震で福島県は、広い範囲で約３分間、震度６強や６弱の大きな揺れが襲い、
その後、沿岸部には１０ｍを超えるような津波が襲い、甚大な被害が発生しました。

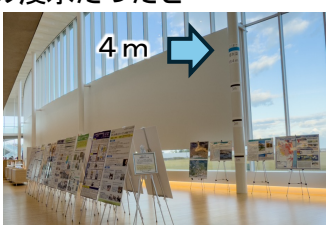
問い：地震・津波の映像などで、その威力や被害の大きさをしっかり見てみましょう。

補足・参考

伝承館のある福島県　双葉郡双葉町（ふたばまち）は、
最大１６．５ｍの津波の高さを記録（４−５階建てのビル位の高さ）

伝承館の周辺は、防潮堤や土地自体の高さもあり、４ｍ程度の浸水だったと
推定されます。

１Ｆエントランスの柱に４ｍの高さが表示されています。



P10　東京電力 福島第一原子力発電所の事故

この頁の目的	基本時間
東京電力 福島第一原子力発電所の事故発生の概要を知る	1.0分

学習用資料

指導例

地震・津波に加えて…　東京電力　福島第一原子力発電所で事故が発生しました。

地震により外部電源の供給が停止し、津波によって発電所構内の非常用発電機が水没したため、すべての電源が失われてしまいました。

その結果、原子炉を冷却することが出来なくなり、１号機から４号機において
水素爆発や、熱で核燃料が溶け落ちる炉心溶融（メルトダウン）といった重大な事態が起きました。
この事故により、大量の放射性物質が大気中に放出されることとなりました。

補足・参考

▌第一原発の５，６号機はなぜ無事だったか

事故当時、定期検査のため運転停止中だった。
津波が襲来した後も、非常用ディーゼル発電機や非常用バッテリー、電源車が
稼働できる状況にあり、電源を確保できたことから大きな事故を免れた。

▌第二原発はなぜ無事だったか

外部電源が１系統使えたため、各発電機に仮設でケーブルを接続し、冷却機能を確保できた。

P11 世界でも例のない複合災害（地震・津波・原子力災害）

この頁の目的	基本時間
前例のない複合災害 特に原発事故で「当たり前の日常が失われた」ことを知る	1.0分

学習用資料

指導例

原発事故によって、周辺地域には避難指示が出され、
最大１６万５千人近くの人が避難し、今なお立入りが制限されている地域や
避難を余儀なくされている人たちがいます。

自分たちの地域にも、どのくらい避難してきた人がいるか考えてみる

例）東京には、何名ぐらいの人が福島から避難してきたと思う？　など

この震災により、福島県は、地震・津波・原発事故という、
世界が経験したことのない複合災害を経験することになりました。

福島県では人々の暮らし、当たり前の日常が失われることになったのです。

補足・参考

▌なぜ原発から左上（北西方向）の方が線量が高いのか

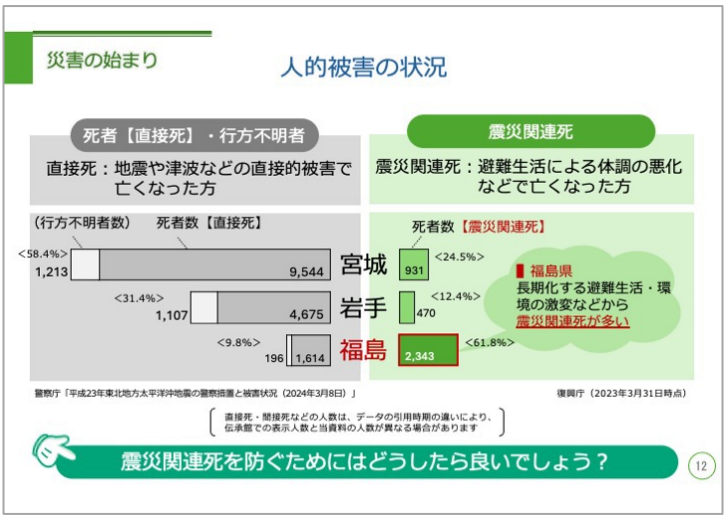
原発事故後の風向き（北西方向への風）により拡散した放射性物質が影響。
原発事故により環境に影響を与えるのは、事故そのものだけではなく、
その後の風向き・天候・地形によって変わる。

※ 福島県内、県外への避難状況と避難者数の推移
（Ｐ２５ー図２　参照）

P12　人的被害

この頁の目的	基本時間
犠牲者の中でも特に「関連死」について考える （災害時は助かった命がその後の避難や避難生活で犠牲になった命）	1.0分

学習用資料



指導例

人的被害の状況です。

この震災で多くの尊い命が失われました。

「震災関連死」という言葉があります。
建物の倒壊や火災、津波などの直接的な被害で亡くなる「直接死」に対し、
震災関連死は、避難生活による体調悪化や過労、そして自らの命を絶つ方も含まれます。このように、地震や津波といった直接の原因ではなく、避難、避難生活やその後の困難が原因で命を落とすことを指します。

特に福島県では震災関連死の数が多いことが分かります。

問い：　能登半島の地震でも関連死の報道がされています。
　　関連死を防ぐためにはどうしたらいいか、考えてみよう。

補足・参考

関連死は、避難指示区域が多く、また高齢者の比率が高い。

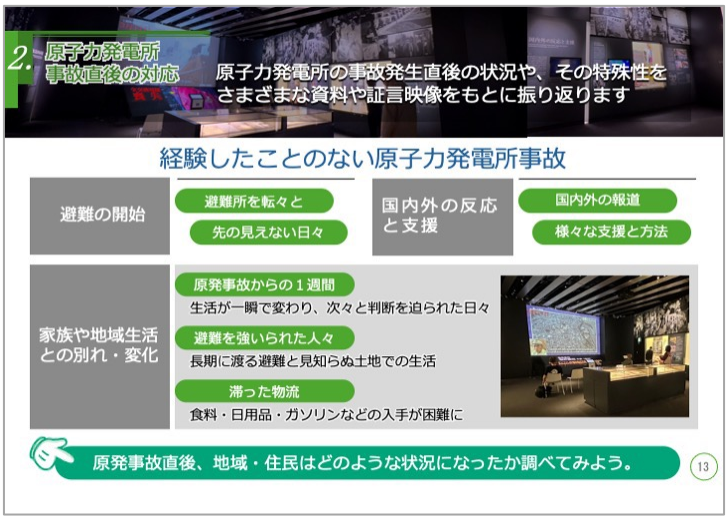
原発周辺地域では、住民の２～３%もの人が関連死で亡くなっている。

		宮　城		岩　手		福　島		全国 計
直接死・行方不明者	死　者	9,544	60.0%	4,675	29.4%	1,614	10.2%	15,900
	行方不明者	1,213	48.1%	1,107	43.9%	196	7.8%	2,520
	計	10,757	58.4%	5,782	31.4%	1,810	9.8%	18,420
震災関連死		931	24.5%	470	12.4%	2,343	61.8%	3,794

P13　原子力発電所事故直後の対応

この頁の目的	基本時間
原発事故直後、地域・住民はどのような状況になったか その事実を知る（自分事として/受入側となったら）	1.0分

学習用資料



指導例

ゾーン２では、原発事故直後の様子を知ることが出来ます。

避難指示によって、地域の人たちは避難を開始しました。
しかし、先の見えない状況に不安が広がり、避難先を転々としなければならない方も多くいました。物流の停滞や県産品の出荷停止といった影響も深刻でした。

ここでは、さまざまな資料や映像を通じて、事故直後の様子をしっかりと確認しましょう。

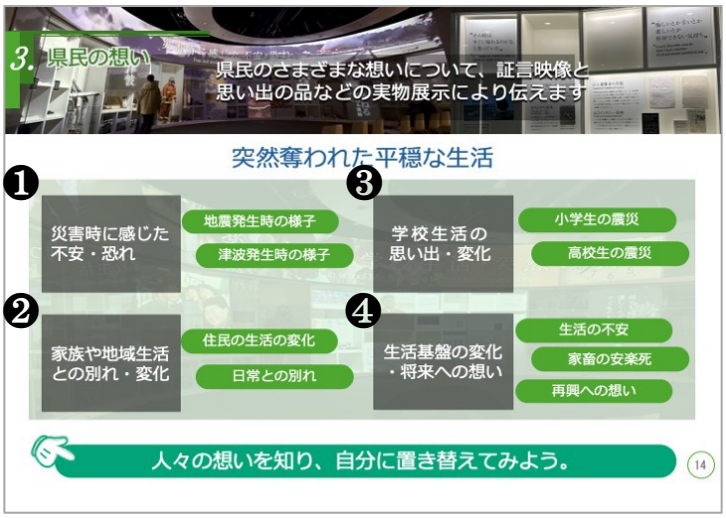
問い：ゾーン２に展示されている資料や映像を通じて、原発事故直後、
地域や住民はどのような状況に置かれていたのか調べてみましょう。

補足・参考

P14　県民の想い

この頁の目的	基本時間
災害により人々の暮らしの変化や想いを知り、どのような社会であるべきか等、広い視点で考える	1.0分

学習用資料



指導例

ゾーン３では、県民の様々な想いを確認することができます。

❶地震・津波が発生したとき、人々がどんな経験・想いをしたのか

❷避難指示により、家族がバラバラになり、それまでの生活がどのように失われたか

❸子どもたちが避難先で別々の学校に転校し、どのような影響があったか

❹生活がどう変化し、どのような想いで過ごしてきたか

これらのテーマについて、人々の証言映像や展示内容を通じて、当時の状況をより詳しく知り、深く考えてみましょう。

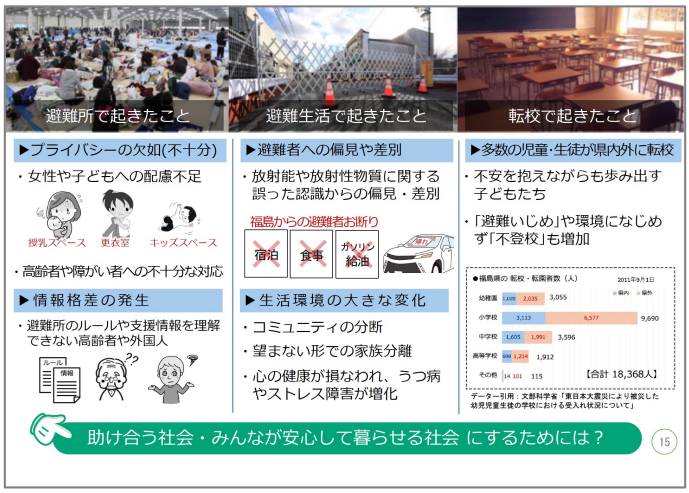
問い：人々の証言映像・展示内容から詳しく知り、自分に置き換えて考えてみましょう。

補足・参考

P15　補足情報（人権について）

この頁の目的	基本時間
東日本大震災・原子力災害が引き起こした人権問題について	2.0分

学習用資料



指導例

原発事故による福島の人々の避難では、多くの問題が起きたのも事実です。

▸避難所ではプライバシーが十分に守られず、女性の授乳スペースや更衣室、子どもたちが安心して遊べる場所が不足していました。また、高齢者や障がい者への対応が不十分で、情報格差も問題となりました。高齢者や日本語が不慣れな外国の方々には、避難所のルールや支援情報が伝わらないことがありました。

▸さらに、避難生活では、福島から避難してきた人々が偏見や差別を受けるケースもありました。「放射能がうつる」という誤解から、宿泊・食事・給油を断られたり、嫌がらせを受けた例もあります。また、家族が離れ離れになったり、心の健康を損なう人もいました。

▸皆さんの年代に関係する問題として、転校があります。福島では１万８千人以上の子どもが転校を経験し、不安を抱えながらも前向きに頑張る姿がありました。しかし一方で、避難いじめや環境変化で不登校になる子どもも増えました。
このページにあるさまざまな問題は何に関する問題でしょう？…「人権」に関する問題です。

問い：「災害」が「人権問題を引き起こす」という事実を理解し、
助け合う社会・みんなが安心して暮らせる社会にするためには
どうしたら良いか考えてみましょう。

補足・参考

P16　長期化する災害の影響・除染と中間貯蔵

この頁の目的	基本時間
放射性物質を取り除く「除染」作業について知る どのように環境を改善したか、また最終処分の課題について考える	1.0分

学習用資料

指導例

ゾーン４では、長期化した原子力災害の影響について学べます。

放射性物質が発する放射能は、時間の経過とともに自然に減少しますが、
これには長い年月がかかるため、「除染」という作業が行われてきました。
具体的には、建物表面の拭き取り作業、土の表面を取り除く作業、アスファルトや
コンクリート表面などの放射性物質を取り除く作業を行ってきました。

剥いだ土や拭きとったもの等は、「黒いフレコンバッグ」と呼ばれる袋に入れ、
各地で仮置き後、福島第一原子力発電所の周辺に設置された中間貯蔵施設に搬入され、
保管しています。（対象は１，４００万㎥・東京ドーム１１杯分）

「中間貯蔵」とされていますが、２０４５年３月までに福島県外で最終処分するということが法律で決まっています。

問い：最終処分はどうしたらよいか、考えてみましょう。
（我々の地域で引き取る場合の課題、などの問いも有効）

補足・参考

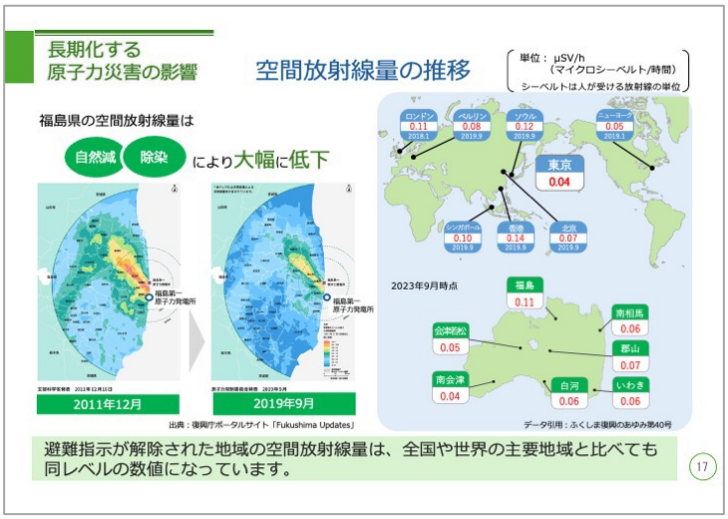
除染土壌の再利用の実証について

建設資材や農業用地での再利用を検証しているが、再利用・最終処分含め、
どうするかは２０２５年１月現在 未定。

P17　空間放射線量の推移

この頁の目的	基本時間
原発事故により放出された放射性物質の環境影響・放射線量の推移について事実を知る	1.0分

学習用資料



指導例

福島県内の空間放射線量は、事故当時に比べ、年月の経過による自然減や除染作業によって大幅に減少しています。

現在、避難指示が解除されたエリアの空間放射線量は、
全国や世界の主要地域と比べても同レベルの数値になっています。

皆が福島で訪問する場所は、避難指示が解除されて住民の人たちが暮らしている場所なので、放射線による健康への影響を気にする必要はありません。
安心して行きましょう。

補足・参考

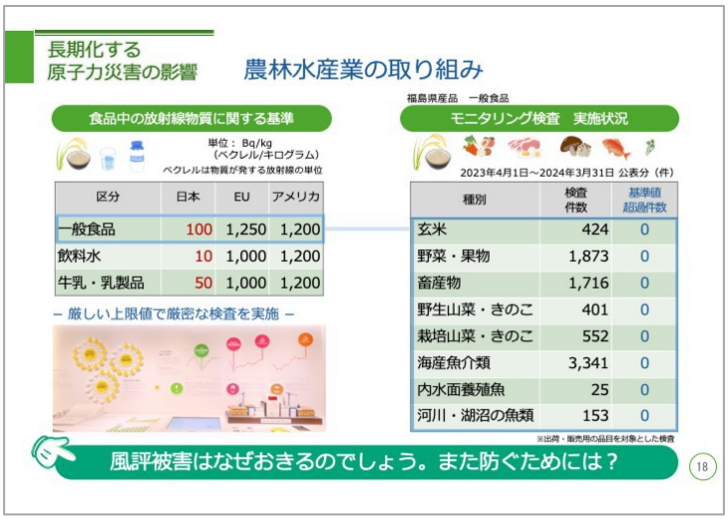
原発事故により大気中に放出された主な放射性物質の半減期
・セシウム１３７　…３０年
・セシウム１３４　…　２年
・ヨウ素１３１　……　８日

震災から１３年以上経過している現状、環境に影響を与えているのは、
ほぼ、セシウム１３７ともいえる。

P18　農林水産業の取り組み

この頁の目的	基本時間
原発事故により打撃を受けた福島の食品の安全性、風評被害について知る	1.0分

学習用資料



指導例

福島の食べ物と聞いて皆はどう思いますか？（心配？平気？）

福島県では、農作物や魚介類の安全をしっかり確認するために、モニタリング検査など、放射性物質の検査を綿密に行なっています。
この検査では、一般的な食品に含まれる放射性物質が基準値（１キログラムあたり１００ベクレル）を超えていないかを調べています。この数値は、海外と比べても厳しい値です（米国＝１，２００ベクレル、ＥＵ＝１，２５０ベクレル。）

こうした厳しい基準と検査体制のもとで、２０２３年度の検査結果では、出荷・販売される前の福島県の農林水産物はすべて基準値以下で安全と確認されています。

それでも、「福島産」というだけで市場価格への影響や購入をためらう人がいることも現状です。

問いだて：風評被害はなぜ起きるのか、防ぐためにはどうしたらよいか考えてみましょう。

補足・参考

事故後、福島県の米（玄米）の安全性を確認するため、２０１２年から２０２０年までの間、全量全袋検査を実施していました。この検査では、１袋あたり約３０kgの米を対象に、年間約１，０００万件もの検査が行われていました。

基準値超過ゼロが継続したので、現在は（※一部地域を除き）抽出検査に移行。

※２０２４年度：南相馬市、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村、川俣町（旧山木屋村）の８市町村

P19 （復興への挑戦）新たな産業の取り組み

この頁の目的	基本時間
地域の主要産業（原子力発電）に変わる新たな産業の創生、 その取り組みを知る	1.0分

学習用資料

指導例

最後のゾーン５では、復興への挑戦について学べます。

原発が大きな支えとなっていた地域では、原発事故により福島第一・第二原発の廃炉が決定し、その作業が進んでいます。また長期の避難指示により周辺産業も大きく減少しました（ゼロになった）。地域の復興・持続可能な社会のためには、産業の回復が不可欠です。

福島の浜通りで失われた産業の回復として、「福島イノベーション・コースト構想」という国家プロジェクトがスタートしています。

１. 廃炉　　２. ロボット・ドローン　３. エネルギー・環境・リサイクル
４. 農林水産業　５. 医療関連　　６. 航空宇宙

といった大きく６つの分野で世界に誇る産業の集積地にしようという取り組みが進んでいます。

●復興に向けたさまざまな取り組みを調べてみよう。

補足・参考

※事前学習振り返りへのつなぎ
予備および質疑応答など（５分）･･･実際の時間に合わせ調整ください

以上、伝承館見学前の　福島の基本情報について
伝承館で学習する内容の基本的な情報について学習しました。

→次頁のワークへ

生徒の質問に対してはすべて指導者が回答せず「それについては皆で調べてみよう」等、能動的な学びにつなげるようにしてください。

P20　事前学習を通して（ふり返り・目的の設定）

この頁の目的	基本時間
これまでの内容をふり返り、それぞれで伝承館見学の目的を設定する	9.0分

学習用資料

指導例

では、今日の事前学習のふり返りをします。
次の２つの質問について考えてみましょう。

●ふり返り：事前学習を通して
この時間、たくさんの福島・震災に関連することを学習しました。
知ったこと、感じたこと、考えたこと、疑問に思ったことなど
ノートに書き出してみましょう。

●まとめ　：伝承館で学びたいこと
皆が興味をもったことから３つあげてみましょう。

（合わせて３分間で書き出す）

時間になったら終了の合図をし、複数人に発表してもらい全体共有をはかる
（３分＋予備２分）

補足・参考

P21　学習のまとめと動機づけ

この頁の目的	基本時間
学習のまとめと改めて動機づけ	1.5分

学習用資料

指導例

（指導者より、学習に向けて目的の明確化や動機づけなどを行ってください）

補足・参考

参考データ

（図１）都道府県別面積

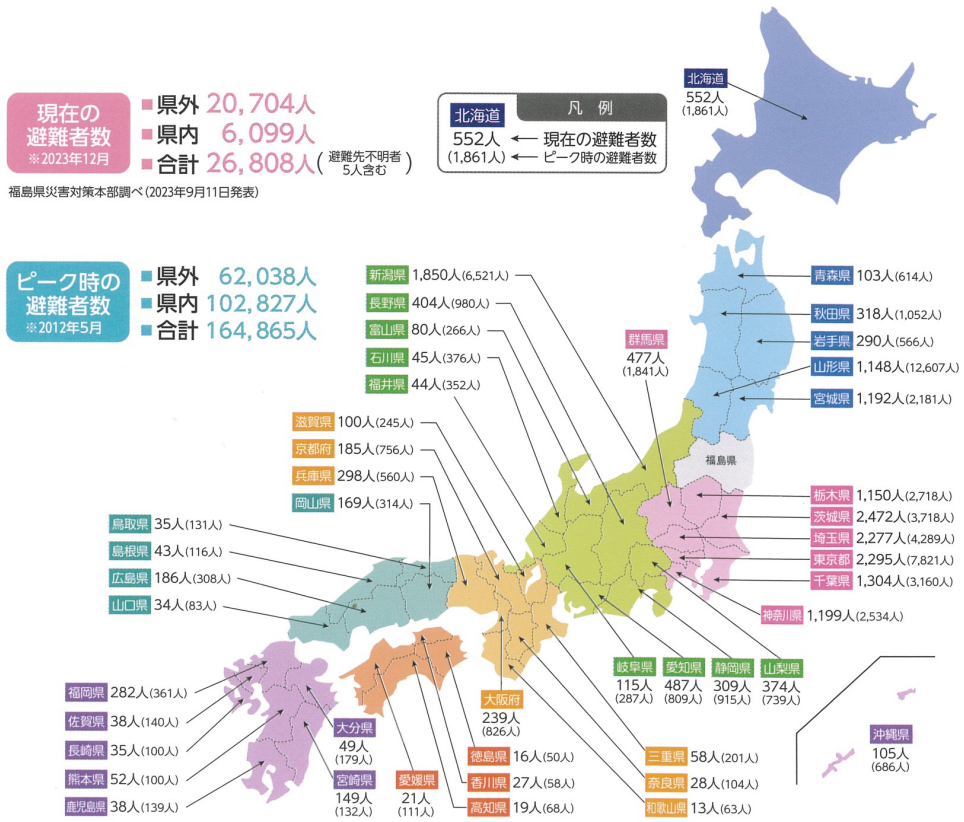
地方	順位	都道府県名	面積（k㎡）	福島との面積比較値※
北海道	1	北海道	83,422	0.2
東北	8	青森	9,645	1.4
	2	岩手	15,275	0.9
	16	宮城	7,282	1.9
	6	秋田	11,637	1.2
	9	山形	9,323	1.5
	3	福島	13,784	1.0
関東	24	茨城	6,098	2.3
	20	栃木	6,408	2.2
	21	群馬	6,362	2.2
	39	埼玉	3,797	3.6
	28	千葉	5,156	2.7
	45	東京	2,199	6.3
	43	神奈川	2,416	5.7
北陸甲信越	5	新潟	12,583	1.1
	33	富山	4,247	3.2
	35	石川	4,186	3.3
	34	福井	4,190	3.3
	32	山梨	4,465	3.1
	4	長野	13,561	1.0
東海	7	岐阜	10,621	1.3
	13	静岡	7,776	1.8
	27	愛知	5,173	2.7
	25	三重	5,774	2.4

地方	順位	都道府県名	面積（k㎡）	福島との面積比較値※
近畿	38	滋賀	4,017	3.4
	31	京都	4,612	3.0
	46	大阪	1,905	7.2
	12	兵庫	8,400	1.6
	40	奈良	3,690	3.7
	30	和歌山	4,724	2.9
中国	41	鳥取	3,507	3.9
	19	島根	6,707	2.1
	17	岡山	7,114	1.9
	11	広島	8,478	1.6
	23	山口	6,113	2.3
四国	36	徳島	4,147	3.3
	47	香川	1,876	7.3
	26	愛媛	5,675	2.4
	18	高知	7,102	1.9
九州	29	福岡	4,987	2.8
	42	佐賀	2,440	5.6
	37	長崎	4,131	3.3
	15	熊本	7,409	1.9
	22	大分	6,340	2.2
	14	宮崎	7,734	1.8
	10	鹿児島	9,186	1.5
	44	沖縄	2,282	6.0

※ 福島の面積を１とした比較値

【出典】面積数値：国土地理院「令和6年全国都道府県市区町村別面積調（令和6年7月1日時点）」
【補足】福島県との面積比較値は、上記データを基に独自に算出したものです。独自計算値は参考値であり、国土地理院の公式発表ではありません。

（図２）福島県内、県外への避難状況と避難者数の推移



（画像）福島県観光交流課 発行「福島のあの日からいま vol.6」より

4 事後学習のご紹介（参考）

当館で実施するワークショップをベースに各学校での事後学習方法の例を記載しております。授業での実施を想定し１コマ５０分と、２コマ９０分（１０分予備）の２パターンの進行例をご紹介しますので、指導者の方々なりにアレンジし実施ください。

ワークショップ①

■基本時間：５０分（授業１コマ）

■振り返り
個人→各グループ共有→全体共有
（個人で振り返ったことを他のメンバーと共有することで学習を深める）

■アウトプット（自分事化）
自分たちの日常に活かすことを個人で考え「宣言書」に記入
→各グループ内で共有（全員宣言）
→全体で共有する（代表者）

ワークショップ②

■基本時間：９０分（授業２コマ以内）

■振り返り（個人）
個人→各グループ共有→全体共有
（個人で振り返ったことを他のメンバーと共有することで学習を深める）

■アウトプット（自分事化）
グループで出た感想等を整理し、取り組むべき課題・自分たちの日常に活かすことをテーマアップ
「ワークシート」に記入
→全体で共有する（各班単位で発表）

次頁に実施方法等を記載しております

（事後学習）	伝承館学習のワークショップ①	基本時間　５０分

■事後学習のワークショップについて

当ワークショップは、伝承館の一般研修プログラムのワークショップ（60分）をベースに**授業1コマの50分**に短縮したものです。
一人一人が伝承館の学習で得た知識や感じたことをしっかり振り返り整理することで、学習をより確実なものにしていきます。
また、生徒間で感想や意見を共有することで、視点の異なりや多様な考えからの気付きを得られるよう、個人ワーク・グループワーク・全体共有を組み合わせております。

事前学習、伝承館での学習、そしてこの事後学習による振り返りを通し、自分自身が災害や地域社会の課題にどう向き合うか、どう活かすかを考え、「宣言書」にまとめることで、自分自身の行動につなげていくプログラムとしています。

スケジュール上、当ワークでは、生徒一人一人が「宣言書」でアウトプットすることにより、「他人事」から「自分事」へ見方、考え方の転換をはかることをねらいとしております。

■ワーク設定　・所要時間　50分
・班編成：　1班 4～5人程度
・準備物：　付箋、模造紙、ワークシート（添付の宣言書）、筆記用具

■進行スケジュール例

項目	自	分	至	内容　（指導者の言葉で進行ください）
準備	0:00	2	0:02	・授業の開始、グループ作り確認など　（事前に班編制を伝えておく）
①進行説明など	0:02	2	0:04	○ワークショップの開始について ○福島（伝承館）訪問時のことを思い返してもらう 当日の行程・伝承館訪問時のことなど （展示見学内容・周辺地域の様子等どうだったか）
②個人ワーク	0:04	9	0:13	○振り返り：一人一人インプット情整の整理【8分】 ・各自学んだこと（得た情報）の整理 分かったこと、感じたこと、疑問など →「付箋」に細かな文章ではなく、短い文章や キーワードでどんどん書き出す （当日のメモや行程表などを参考に） **個人ワーク** 情報整理 分かったこと、感じたこと 疑問に思ったこと　など
③グループワーク	0:13	16	0:29	○班内で共有　【5人×3分＝15分】 ・自分が感じたこと等、一人ずつ発表 ・皆に書いた付箋を1枚ずつ見せながら説明 ・模造紙に貼る（ランダムで可） ・しっかり伝え、しっかり聴く・否定しない （同じものを見ても同じ話を聞いても受取りは人それぞれ） 時間が余った班は質問しあったり深掘りなど有効に使う **グループワーク** 一人ずつ発表 それぞれの感想などを伝え合うことで、色々な人の考えを知る。
④全体共有	0:29	8	0:37	○各班で出た内容を全体で共有 ・どんな内容が出たか。共通したものや異なった感想など ・各班の代表者（1分程度に要約） ※指導者は必要に応じて介入　・問いや補足で学びを深める 例）・○○について、違った意見はなかったか？ ・○○ではないかいう話があったが、皆どう思う？ ・○○が疑問ということに関して説明出来る人は？　など **全体共有** 各班の内容共有 全体で共有し、学習を深める。
⑤個人・宣言書	0:37	5	0:42	○別紙の「宣言書」に各自記入　【3分】 ・事前学習・伝承館での学習・この振り返りを通し、 自分たちの日常・社会・未来に活かしたいことを 宣言書にまとめる。 書き出した付箋の内容（自分の振り返り）やグループ内 全体共有を踏まえ、 強く心に残ったことをどう活かすか
⑥グループワーク	0:42	3	0:45	○班内で共有 ・1人ずつ宣言書に書いた内容を発表する（理由も含め）
⑦全体共有	0:45	3	0:48	○代表者による発表 ・数名に発表してもらう
⑧クロージング	0:48	2	0:50	○指導者　総評・メッセージ ワークショップの感想含め、各指導者の想いを伝えてください。 例）福島での学習は自分たちの社会や皆のこれからにも共通する課題. 今回の学習を活かしていこう　など

（事後学習）　**伝承館学習のワークショップ②**　基本時間　９０分

■事後学習のワークショップについて

当ワークショップは、伝承館の一般研修プログラムのワークショップ（60分）をベースに**授業２コマ内の90分**を想定した内容です。
一人一人が伝承館の学習で得た知識や感じたことをしっかり振り返り整理することで、学習をより確実なものにしていきます。
また、生徒間で感想や意見を共有することで、視点の異なりや多様な考えからの気づきを得るよう、個人ワーク・グループワーク・全体共有を組み合わせております。

事前学習、伝承館での学習、そしてこの事後学習での振り返りを通し、自分たちの学習で得た情報を基に、課題を見出し、考え続けたいテーマを選定することで、さまざまな課題の認識、「他人事」から「自分事」につなげることをねらいとしております。

■ワーク設定　・所要時間　90分
・班編成：　1班 4～5人程度
・準備物：　付箋、模造紙、ワークシート（添付の宣言書）、筆記用具

■進行スケジュール例

項目	自	分	至	内容　（指導者の言葉で進行ください）
準備	0:00	2	0:02	・授業の開始、グループ作り確認など　（事前に班編制を伝えておく）
①進行説明など	0:02	2	0:04	○ワークショップの開始について ○福島（伝承館）訪問時のことを思い返してもらう 当日の行程・伝承館訪問時のことなど （展示見学内容・周辺地域の様子等どうだったか）
②個人ワーク	0:04	12	0:16	○振り返り：一人一人インプット情整の整理【10分】 ・各自学んだこと（得た情報）の整理 分かったこと、感じたこと、疑問など →「付箋」に細かな文章ではなく、短い文章やキーワードでどんどん書き出す （当日のメモや行程表などを参考に） 個人ワーク 情報整理 分かったこと、感じたこと 疑問に思ったこと　など
③グループワーク	0:16	17	0:33	○班内で共有　【5人×3分＝15分】 ・自分が感じたこと等、一人ずつ発表 ・皆に書いた付箋を1枚ずつ見せながら説明 ・模造紙に貼る（ランダムで可） ・しっかり伝え、しっかり聴く・否定しない （同じものを見ても同じ話を聞いても受取りは人それぞれ） 時間が余った班は質問しあったり深掘りなど有効に使う グループワーク 一人ずつ発表 それぞれの感想などを伝え合うことで、色々な人の考えを知る。
④全体共有	0:33	15	0:48	○各班で出た内容を全体で共有 ・どんな内容が出たか。共通したものや異なった感想など ・各班の代表者（1分程度に要約） ※指導者は必要に応じて介入　・問いや補足で学びを深める 例）・○○について、違った意見はなかったか？ ・○○ではないかいう話があったが、皆どう思う？ ・○○が疑問ということに関して説明出来る人は？　など 全体共有 各班の内容共有 全体で共有し、学習を深める。
（予備）	0:48	2	0:50	
				＜アウトプット＞
⑤グループワーク 情報の整理 課題選定 ワークシート記入	0:50	20	1:10	○班のメンバーで出しあった付箋をカテゴリー毎にグルーピングし 内容を確認したり、関連するものをつなげたりする。 ・メンバー全員で話し合いながら共通するもの等をまとめる ・グルーピングしたものは見出し（名称）を記載 ・グルーピングした内容から同じ傾向や異なる点等を確認する。 ・それぞれの課題を検討する。 ・メンバーと相談し、重要と考えるものや優先すべきものを選定する ・ワークシートにテーマ・理由・どうするかを記入（別紙） 【全体で20分】
⑦全体共有	1:10	18	1:28	○各班より発表　8班時（2分×8班）【16分】 ・数名に発表してもらう
⑧クロージング	1:28	2	1:30	○指導者　総評・メッセージ ワークショップの感想・各指導者の想いを伝えてください。 例）福島での学習は自分たちの社会や皆のこれからにも共通する課題. 今回の学習を活かしていこう　など
				授業2コマに対し10分余裕もたせているので、予備・コメント等

宣言書

令和　　年　　月　　日

学校名

氏 名

防災・減災・地域社会の課題
持続可能な社会の実現に向けて

年月日	年　月　日
学校名・学年	
グループ名	
氏名・メンバー名	

― 私たちの宣言 ―

震災から未来へ：私たちが考え続けること

テーマ

今回の学びをもとに、私たち（私）が特に考えたい・取り組みたいと思うテーマを一つ挙げましょう。

このテーマを選んだ理由

テーマを選んだ背景や自分の気持ちを書き出してみましょう。
自分の経験や今日の学びのどこが影響しているのかを考えると良いです。

そのためにどうするか

選んだテーマを実現するために、具体的な行動や考えを整理しましょう。
小さな一歩でも大丈夫です。
・日常でできること　・学校や地域でできること　・将来に向けて　等